

平成23年度青森学術文化振興財団 懸賞論文講評について

1 はじめに

当財団では、平成21年度より「地域の発展を図るために経済・社会・文化の領域における学術研究（寄附行為第4条第一項）」に基づいた事業として、広く県民から「地域振興に関する私の提言」、「地域経済・社会・文化の振興策（キーワード形式）」をテーマとした論文募集を行い、平成23年度は全体で12編の応募があった。

審査には、高山貢審査員長（一般財団法人青森地域社会研究所専務理事）、香取薫審査員（青森公立大学教授、地域研究センター長）、佐藤淳審査員（青森中央学院大学講師）、加賀谷久輝審査員（常務理事）の4名があたり、厳正な審査の結果、今年度は優秀賞3編を選んだ。

2 全体講評

審査については、今回の応募作品12編のそれぞれの論文レベルの差が激しく、思いは書かれているが、具体的に地域振興の方策は何かを具体的に掘り下げて論じていない作品が多い結果となった。事前審査の合計点数の結果を元に、論文として体を成している上位3位の論文について重点的に審査を行った。

次回は、引き続き応募要項に則した論文形式を備えると共に、根拠となるデータに基づいた論文の応募に期待したい。

3 受賞論文講評

優秀賞

海から見た津軽圏の地域振興策の一考察

奈良 輝昭

海上交易ネットワークの優位性を活かした青森港、八戸港、七里長浜港の活用による地域活性化への影響は大きく、大変興味深い内容である点が審査員の方々より高く評価された。既存の港の現状や比較、具体的なデータがあれば、更によりよい作品となり、海からの目線での地域振興策が期待できる。全体の中で相対評価すれば一番良い作品である。

優秀賞

農を核とする都市・農村交流施設の集中立地によるにぎわいの場づくり

鳴海 勇蔵

農村交流レストラン等を都市部と農村部の間に一つにまとめて作るという案についてはとても良い点が審査員の方々より高く評価された。具体性として、青森市で言えば都市部と農村部の間とはいったいどこなのか、担い手やコストについて、もう少し考えを掘り下げて論じることで、さらによりよい作品となり、農業分野への地域振興策として期待できる。

優秀賞

青森地域経済の活性化における提言～雇用と教育特区構想～

梅村 岳

懸賞論文のテーマに対する取り組みが良い点について審査員の方々より評価されている。具体的に新たなことをすることで発生するコストの試算、少子化からの観点、既存のものからの工夫等の考えを掘り下げていくことで、少子化における教育分野で地域活性化策として、よりよい作品になると期待できる。